
一連のたばこ

海いか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一連のたばこ

【コード】

N2704N

【作者名】

海いか

【あらすじ】

全体的にたばこくさい短いお話です。

部屋に煙草臭いが充満する。

奴が来てからこの部屋はずいぶんヤニ臭い部屋になってしまった。それまではどんな香りに部屋だったかと聞かれると、答える事はできないのだけれど。

奴は、私が朝部屋を出て仕事から帰るまでそこにいる。所謂ヒモというやつだろうか。世間一般的に言うあまりよくない状況なのかもしれないが、別段気にならなかった。私にとってそれはあまり重要な事柄ではなかったのだ。

奴は私のベッドに寝転がり、煙草をふかしながら昔は絵描きになりたかっただけの物書きになりたかったのだと私に言っただけで聞かせる。それが本当かどうかはわからなかった。奴がここにきてから私は奴が絵を描いたり小説を書いている姿を見た事がないからだ。

ある日の事、私が傷んだ髪を手ですいていると、奴はお前は煙草吸うなよーと言って私にたばこがいかにかに体に有毒かを話し始めた。2倍の速さでしわが増えるとか、肺癌がどうのこうのと。聞いたびに私はよっぽど受動喫煙って知ってる？と言ってやるうかと思っただが、結局言うことはなかった。今となってはどうでもよい事だが、充滿した煙にたまらず窓を開け放した。ぬるい風が通り、何度も染めて元の色を忘れた髪がぎこちなくなびいた。

奴はよく、自分は肺癌で死ぬだろうなと言っていた。それだけ煙草を吸っていたのだ。私も、奴は肺癌か煙草により削られた分を差し引いた寿命を全うして死ぬだろうなと思っていた。いずれにしても煙草に殺されるだろうと。

しかし奴は車に轢かれあっけなく死んでしまったのだった。

私が死体を見る事はなかった。奴は大抵部屋にいるのだが、たま

にふらふらと外へ出ては数日帰ってこないという事がよくあった。またそれかなと思つてみると、奴の母親と名乗る人物が私の部屋を訪ねてきた。事の顛末を淡々と話し、遺品を引き取りに来たと言う。思えば奴の荷物などほとんどなく、私は渡すものがあるだろうか心配しながら荷造りをし、彼女に小さな布かばんに詰めた、あつてないような奴の遺品を渡した。彼女は短く礼を言つと、私に奴の恋人だったのかと尋ねた。私は奴の恋人だったのだろうか。一緒に住み、恋人の真似事のような事はしたが、はたして私は奴の恋人だったのだろうか。私は素直にわからないと答えた。彼女は微かに笑つと、片方の目から一粒だけ水を落とした。私はそれが何か一瞬思い出せなかった。

なぜか私は彼女が好きだった。年頃が同じなら友人になれたのではないかとすら思つた。どこか似通つたところがあるように思えて、短い対面に間に探してみたが、ついに見つける事は出来なかった。奴が私のところに来たのは彼女にどこか似ていたからだろうか。このマザコンめ。

私はまた会いたいと思つたが、残念ながらこの日以来彼女の姿を見る事はなかった。

奴との出会いはどのようなものであつたか、一緒に暮らし始めた日の事、思い出さすには余りにも浅黒いそれを頭の中で反芻しながら電車で揺らされる。その浅黒さは私に思わせた。煙草のヤニで黄色くなつた白い壁紙を、いたんだ髪の毛を、それをなびかせるぬるい風を。私の手は手書きの地図を握つている。彼女がくれた奴の墓へ続く地図だ。奴が死んで数カ月、彼女から地図が送られてきて数日たったこの日、私は久しぶりに奴に会いに行った。

そして今、私は奴の墓の前にいる。

彼女に渡し損ねた、奴の煙草を持つて。

私は吸えない煙草を吸つた。最初はかなりむせたが、ややもする

とそれなりに吸えるようになった。私は煙を吸い、奴に向かって煙を吐いてざまあみると言おうとしたが、それは音にならず水になって目から落ちた。

その日以来私は煙草を吸うようになり、部屋は今でも煙草臭い。

私はいつか煙草に殺されようと思う。煙草の匂いが奴の匂いに見える仕方がないのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2704n/>

一連のたばこ

2010年10月16日00時46分発行